

エルガク

ひとりブツリガクのチヨウセン

エイゾウ

はじめに

わたしは、ズイヒツをネンにニカイテイドシュツパンしている。はじめは、みのまわりのヘンカなどをかいていたが、ダンダン、シャカイケイザイのはなしや、ブツリガクテキなはなしがおおくなってきた。ニュートンがりんごのみがおちるのをみて、ホウソクをみいだしたのにちかい。わたしは、センタクキをみて、ウチユウをかんがえた。

それが、ロクサツシュツパンするなかで、イツサツのブンリョウにタツしたので、まとめてみた。このあともギロンはつづく。だから、またまとめなおすか、ツイカシュツパンすることになる。

はつきりいつてここでのギロンはカッテリユウである。わたしは、コウコウでブツリをまなばなかつたし、ダイガクもリケイガクブにかよわなかつた。しかし、シャカイやニンゲンをケンキュウするよりも、もののホウがタンジュンである(カガクシキをかいてみたらよい。)だから、イチからケンキュウするにはとっつきやすいとおもっている。それなりにまじめにギロンしているつもりである。しかし、たまに、あとでそうではないということがある。まぢがうのもギロンをすすめるためにユウコウとおもっている。テイセイはしたいとおもうが、

かならずしもされているとはかぎらない。

また、このケンキュウブンをかりに、「エルガク」となづけた。「ブツリガク」でもよいのだが、わたしがカッテにやっているのだから、「ブツリガク」ではない。といわれるのをあらかじめふせいである。

また、このチョシヨは、タイケイカされていない。ジケイレツでギロンをならべただけである。いずれできたならそういうチョシヨもだしてみたいとおもうが、いまはまだそのときではないとおもう。

ニセンジュウキュウネンハハチガツなのか

イチ、『アルクカラ カンガエル（イカ、「ア」）』ヒヤクジュウゴ

きのうにてがみをおくることを かんがえたり、あしたなら ジョウケンシダイで タッセイカノウダ。だが、きのうのジブンがいないから とどかないだろうとか。ジカンつていうのは ウンドウリヨクなんだとおもう。だからイチ「ロコモーターティブ」ではかれると。そういうのは むかしからで チキュウのカイテンではかっている。そこまで おおきなウンドウだと なかなか イチニチすすめるのは タイヘンだが まあ、イチニチたつだろう。ま、ひかりなんかで おなじようにかんがえている。

二、『ア』ヒヤクジュウロク

ウチュウのレキシをカセットテープがサイセイするとしたら、「オートリバー」にしたら ウチュウはおわらない。シイディだとちよつとまがあく。ただ、カセットテープのばあい、ギヤクむきに カイテンさせないといけない。エンドレストテープがもっともよいかもしれない。

サン、『ア』ヒヤクゴジュウイチ

なぜウチュウがひろがるか。タブンウチュウのなかでのダンスがはげしすぎて、ウチュウのそとにもエイキヨウをおよぼし、おどることを、ヨウセイしてしまうのだろう。だから「ダンスする」ウチュウはひろがっていくと。チキユウジョウでも、「ジンセイというダンス」がくりひろげられている。

よん、『ア』ヒヤクロクジュウサン

「ジュウリヨク」というのはそもそもないのだとおもう。じゃあなぜりんごがきからおちるんだという。それはカイテンのチュウシンにむかうからだとセツメイする。チキユウがジテンしているカイテンジクのチュウシンにむけてうごいたといえるだろう。それをわたしは「うずまきリヨク」という。しおのうず（うみの）のヨウリヨウだ。そうすると、なぜチキユウやカセイなどのワクセイがタイヨウのまわりをまわるかセツメイでできる。つまりうずをまいているということだ。でもそれ

じゃワクセイはタイヨウのホウにイドウしてぶつかるといふかもしれない。しかし、タイヨウはエネルギーというかひかりをはなっている。そのひかりのちから、おもさというか、でキヨリをたもてる。だから、タイヨウがエネルギーをハツしなくなつたら、それを「ブラツクホール」というかもしれないが、チキユウをはじめ、タイヨウケイのワクセイは、シダイにヘンカしたタイヨウにちかづきシヨウトツしてしまふだろう。つまり、「りんご」もチキユウのジテンにヒツテキするちからがくわればおちない。ただ、それがいいだけだ。だから、チキユウのジテンがなくなれば、ひとはチユウにうくようになるだろう。でも、ニュートンのジダイには、テンドウセツがまだはばをきかせていてそういうことをいづらかつたのだとおもう。だから、ダキヨウとしての、「ジュウリヨク」だったのではないだろうか。もつともわたしはニュートンについてくわしくないので、ジカンがあつたらしらべようとおもうが、ニュートンがどうかんがえたかはセイカクにはわからない。

でも、こうかんがえるようになって、なぜワクセイがカイテンするのかといふなぞがとけた。「かみ」のなせるわざだとかかんがえなくてすむようになった。

ゴ、『ア』ニヒヤクキュウ

「クウチュウテイエン（そらにうかぶテイエン）」などできるものか、などとおもっていたが、できるのがわかると、いろいろモンダイがでてくる。ニツシヨウケンとか。ま、カイケツはカノウとおもうが、というより、クウチュウはだれのものか、というギロンになる。ま、いまのところ、クウチュウのいえのケンセツヒヨウがヒヤクオクエンはかかるとおもうので、あまりモンダイにならないが。

ロク、『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ（イカ、「むし）』ジュウシチ

ベツに「かみ（さま）」はヒテイしないが、わかいころは、なぜチキュウがまわっているかセツメイできなかつた（そのセツメイは、●よん、『ア』ヒヤクロクジュウサン）。そういうバカになんかわるいことをふきこめば、いい（よくないが）キヨウキになっていたかもしれない。だから、なんかをふきこまれても、「わからない。」といい、わかるまでまつのがかしこいとおもう。たしかに、だれかにきけばおしえてもくれるだろうが、

まあ、そのひとに「でしいり」するようなものだ。

なな、『む』ニジユウ

「なんでいきているのか」とわれたとき、「なぜ」というイミなら、「なにかをたべるから」とこたえ、「なにが」「いきさせるのか」なら、「ブツシツがうごけるから」とこたえる。そのこたえだと、もし、ブツシツがうごかないようだったら、「いきられない」んだろう。たとえばまわりのオンドがひくいとかが（それだとブツシツのジヨウタイがコタイばかりになる）。そういうブツシツが「うごける」ジヨウケンがあるからいきられると。

エキタイやキタイだとブツシツはうごけるカノウセイがある。だからタイヨウからとおいカセイより、スイセイ、キンセイのホウがセイブツはみつかりそうだとおもいますが、そういう、エキタイセイブツとかキタイセイブツはソウテイガイなのだろうか。

ハチ、『む』サンジユウヨン

ジカンを「エル（アルファベット）（ロコモータータイプ）（●イチ、『ア』ヒャクジュウゴ）」ではかるとしたら、キオンがとてつもなくひくくなれば、セイブツはウンドウが（つまり、キタイ、エキタイがトウケツして）テイシされるだろうから、いきられない（●なな、『む』ニジュウ）というかジカンがそのコタイについてはなげれない。だから、あるティドのキオンのたかさがあれば、ニンゲンは（いきられる）うごける、つまり「エル」であるが、きびしいジョウケンでは「エル」にはならない。

ニンゲンのイッショウをかりに「エル」とすると、そのナイヨウは、ニジュウヨン（ジカン）かけるサンビャクロクジュウゴ（ニチ）かけるハチジュウ（ネン）になる。ケイサンすると、ナナジュウマンハツピャクである。

このスウジを、ウンドウのおせいジョウケンでかんがえてみる。たとえば、ハチわりのはやさだったら（さむいところなどで）、「エル」はドウイツジョウケンとしてかわらない（ウンドウのソウリヨウはかわらない）が、ソウリヨウがナナジュウマンハツピャクとしても、そのウンドウ（ソウリヨウ）をカンリヨウするのに、ハチジュウナナマンロクセン（ヒャクサイ）かかることになる。つまり、テイオンでセイゾンしたほうが、ウンドウのソウリヨウはかわらないとしても、ニジュツサイながくいきられるカノウセ

イがある。つまり、さむいくにのホウが、ながくいきられるということである（ジツサイ、みなみのくにより、キタのくにのホウがながいきである。）。

キュウ、『む』ハチジュウハチ

ビーダマをなにかのまわりで シュウカイ（まわる）させようとする、タイヘンな エネルギーがヒツヨウであろう。デンキでうごくくるまをつけて まわすではいけない。そのものをまわすのだ。チエシヤなら もっといいアンをかんがえるかもしれないが、タブン センタクキのようなどころに いれてしまえば、まわりつづけることができるだろう。それだつて ケツコウな エネルギーだ。つまり、あるクウイキがまわっている というかんがえかたをすれば、チキュウの コウテン（レヴオリュション）を セツメイできる（チキュウが「まわっている」のではなくて、クウイキが「まわる」とかんがえる。これがわたしのチヨシヨ『アルクカラ カンガエル』でとねえたクウカイロンである。ダイニテンドウセツといえるかもしれない。●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン。このばあい、「センタクキのカイテンリヨク」、もつといえれば、「モーターのカイテンリヨク」

がわたしのいう「うずまきリヨク」である。チドウセツ（ビーダマはうごく）、テンドウセツ（クウイキがうごく）でもある。

チキユウがコウテンするのは、セツメイできるが、「うずまきリヨク」とはなにかというのがまだセツメイできていない。タイヨウがそれほどのエネルギーをもつのかというのは、ビーダマをまわすジツケンをすればわかるが、ソウトウなエネルギーだとおもう。

ジュウ、『む』ヒヤクロクジュウサン

「みずはジュンカンする」などという。タンジュンにいえば、チジョウのみずがジョウハツして、あめになつてふるといふものである。たしかにフロにはいつているとみずがジョウハツしたのか、テンメンにしくができる。しかし、なぜそうなるのか。シヨウガッコウでは、みずはヒヤクドシーでジョウハツするとおそわった。ヒヤクドシーでキカするというわけである。ジツサイに、フットウさせて、オンドケイではかったおぼえがある。

だが、フロのゆは ヒヤクドシーにカネツするわけではない。せいぜいヨンジュウゴドシーだ。うみやいけのみずだつてそうだ。ヒヤクドシーにカネツされるわけではない。なのになぜ ジョウハツするか。ひとつのかんがえかたは、ネツが ブンテキに ヒヤクドシーにタツして、みずが ジョウハツする というかんがえかただ。もし、そのようにネツが イツカシヨにあつまるのなら、そのブンでないみずは ネツをうばわれて ニジュウドシーとかに（もとのスイオンがサンジュウドシーだったとする）なるのではないか。もうひとつのかんがえかたは、ヒヤクドシーで みずはキタイにかわるというのほう（うそというかヒヤクドシーで キカがカンリョウするということだろう。ヒヤクドシーでも ジョウハツするとか。）で、ジョウオンでも みずはキカする というものである。

たしかにヒヤクドシーでジョウハツする。だが サンジュウドシーでも ジョウハツするとかんがえる。どういうことかという、みずは キオンより オンドがたかければ、ジョウハツするし、キオンより オンドがたくなければ ジョウハツしないと。これなら、なぜホツキヨクのホウで ゆきがふるのかをセツメイできる。なぜゆきがふるか。それは、ふゆにゆきがふるチイキでは、キオンより スイオンのホウがたかいことがおお

いのだ。だから、みずがジョウハツして、サイドひやされて ゆきがふるといふことだ。みずのジョウハツが ヒヤクドシーでおおるとかんがえていたら ゆきがふることをセツメイできない。

ジュウイチ、『よろこぶゲンシジン（イカ、「よこ」）ジュウゴ

「ジカン」とはなにかというといには、あるブツタイがあるキヨリをイドウするのにかかるままとこたえられる（●イチ、『ア』ヒヤクジュウゴ、ハチ、『む』サンジュウヨン）。それで、テンタイのイドウをカンサツして、「ネン」、「ゲツ」、「ニチ」、「ジ」、「フン」、「ピョウ」とはかれるようにしている。あまりテンタイをみないひとは、とけいのうごきのホウがわかりやすいかもしれない。「フンシン」がうごいたら、それがうごくまえより「ジカン」がおおきくなっていると。

「もの」がイドウするばあいには「ジカン」というガイネンでかぞえることはカノウだというのにタイテイイギはないだろう。しかし、それが「ジョウホウ」だったらどうか。あるデンシブンショがベツなところにおくられるのに、それを「ジカン」がかかる

といえるのか。

いまのジョウホウギジュツではチキュウナイであれば、ほぼすぐさまおくられるのである。むしろサイキンは「ラグ」などという。そういえばむかしはチキュウのうらからのジョウホウが、キタイされているよりおくれることがあった。なぜおくれるか、デンキのながれにムダがあつたり、ほそいケーブルでつないでいたりしたために、「ジュウタイ」のようになつていたのである。それをおもいだすと、「ジョウホウ（もつという）デシキになつてしまふが」のイドウもやはり「ジカン」がかかるといへそうである。

もし、イドウにカンしてまつたく「ジカン」がかからないでカンリョウするならば、もうイドウするジュンジョで（もつともはかりづらいだろうが）ケイソクするしかない。トシにいるひとのコウドウをジュンジョづけてハアクするのににている。そんなかんじではほとんど「とき」というガイネンがむずかしくなる。それでも「とき」をセイリツさせようとすれば、なにかのブツタイやジョウホウをどこかにイドウさせて（ゼンテイではすぐというか「ドウジ」についてしまうのだが）わずかなずれをさがして、「ジカン」や「とき」にするんだらうか。もつというなら、ドウジにつかないジョウケンをさがすだらう（たとえば、かがみをタイリョウにつかつて、あたかもチヨウキヨリをイドウさ

せたかのようなやりかたで)。そうしないと「とき」だとか「ジュンジョ」がむずかしくなるのである。

かりにそういう「とき」のない(すべてイッシュンですんでしまう)カンキョウができたら、ニンゲンはブツシツのイドウがイツキにすすみ、あつというまにしんでしまうかもしれないし、ブツシツのイドウをいつでもできるからと、うごかすことをせず、いつまでもいきるかもしれない(いまのところ「シ」はコクフクされていないので、ゼンシヤかとはおもうが「ヨダンだが、ひとりのニンゲンがしぬまえに、そのひとのサイボウをセツシユシバイヨウしてそだてれば、とりあえずまだいきていることにもなる。モンダイはジョウホウのイテンだ【ジョウホウをイテンしないとなまえすらわからない。】。)

ニンゲンのジュミョウはハチジュツサイがセンシンコクではヘイキンテキだが、ブツシツのイドウがはやくなると、あつというまにしんでしまうということだ。「シ」までのシヨリがシュンジにおこなわれるからだ。タンジュンにいえば、ジカンリョコウをするのは、なまけものじゃないと(すぐにしんでしまうから)たえられないのではないかということ。そういうわたしもよくねるなまけものである。タブンねなかつたらしんでし

まう。ドウジにイドウできるなにかは「ある」が、それはしんでしまつていると、またなまけものは「うごかない」。「デッド」か「セキゾウ（モノ）」がジソウはできないものの、かつてジソウしていたかもしれないなにかだろうか。ソクドがサイコウの「ドウジにトウタツする「ブツタイ」はあるかもしれないが、「あつた」のホウがテキセツかもしれない。そのブツタイは「しんでしまう」ゆえにみつからない（「シタイ」はあるだろうが）。たとえば、なにかのおきものがそうかもしれない。おきものになるまえはイドウしていたと。

「シタイ」や「セキゾウ」からもういちど、サイコウのソクドをもブツタイにすることはむずかしいであろう。ただジンルイは「ひかる」ワクセイをつくりだしているからフシギだ。ニンゲンがつくる「セキゾウ」もキョウミぶかい。ゲンリヨウからジンコウテキにつくられたものだが、それにもソクドをつけたりする。バイクやロケットである。しかし、「シタイ」にソクドをつけているような気がする。

ジユウニ、『よ』ニジユウイチ

「タイムマシーン」というのはよくワダイにだされるはなしである。タブン「できない」けどあつたらおもしろいものとかんがえられているだろう。たしかに「ジカンリヨコウ」はむずかしい。しかし、のぞくことならできそうである。タンジュンにいうと、チキュウからイチコウネンはなれたところにかがみをおく。そうするとチキュウのあるイチニチのえ(えというよりドウガだろう)がイチネンかけてそのかがみにトウタツし、そこで はねかえった「え」がイチネンかけてチキュウにもどる。つまりどういふことかという、ニネンまえの「え」がみられるのである。

くわしくみるにはクフウがヒツヨウだろうが、まあかがみをおくイチをかえれば、もつとちかいカコやおいカコもみられるようになる。もつともすでにかがみがセツチさみているとすれば、そのキヨリかけるニのブンのカコがみられる。そういう「え」をだれかがみているとすると、ものごとのカイゼンがすぐにすすむのだろう。もつともその「え」のみかたによつては「カコ」でセイカツすることもカノウウかもしれない。ただしくいうとスウネンおくれの「カコ」である。

ジュウサン、『よ』ニジュウロク

「ウチュウ」はウンドウタイであろう。チキュウもまわっているし（カクニンしたわけではないが）いろいろうごいている。しかし、「ウチュウ」のそとはどうか（わたしはかつて「か」となづけた）。「ウチュウ」がウンドウタイだとすると、「ウチュウ」のそとはセイシタイではないか。アンガイ、「ウチュウ」のそとのむこうに、またウンドウタイがあるかもしれない。そうかんがえると、「ウチュウ」なんてキョジンのいえのセンタクキみたいなものかもしれない。

ジユウよん、『よ』ニジユウハチ

「ジカン」を「ジカン」たらしめているのはなにか。「ジカン」をロコモーティブ（エール）ではかるとまえにかいた（●ハチ、『む』サンジユウオン、ジユウイチ、『よ』ジユウゴ）。ではなにがロコモート（イドウ）させるのか。

ニンゲンやドウブツはチキュウジョウではそれなりにうまくあるけるが、ウチュウではうまくあるけない。あるくというよりおよぐだろうが、それはおそろしくクツウなようにおもう。なんらかのスイシンソウチがあったホウがカイテキだろう。

そのスイシンソウチについてかんがえると、「おもさ」でうごけるキヨリがかわつてくる。ネンリヨウはイッテイとする。つまり「ジカン」とは「おもさ」によつてきめられるメンがあるということだ。わたしはイゼンに「ジカン」のシツリヨウのことをタイミツクとなづけた。ここでのギロンもコウギのタイミツクについてだ。おもさをロコモートさせるにはネンリヨウ（エネルギー）がヒツヨウである。おもさブンのエネルギー（ここではマサツなどのこまかいジヨウケンにははぶく。）がすすむことのできるキヨリになる。つまりジカンである（チキユウのコウテンでイチネンをはかつている。）。

ただし、エネルギーがあつても、かならずしもすすむことにハツドウしているわけではないとおもわれる。つまり、すすめるのにすすまないということだ。それがセイタイのむずかしさだとおもう。おなじエネルギーリヨウなら、シツリヨウのちいさいホウがよりジカンをもつ。ジカンとシツリヨウをかけるとエネルギー（そのキヨリをロコモートするのにヒツヨウなエネルギー）がでる。それをタイミツクというかはベツとして。

ジユウゴ、『よ』サンジユウニ

エル(ウンドウ) イコール
イー(エネルギー) わる
ダブリュ(シツリョウ)

のさきにエル(ロコモータータイプ「ウンドウリョク」) イコールダブリュ(おもさ) ブン
イー(エネルギー) のはなしをした(●ジユウよん、『よ』ニジユウハチ)。

これはわたしのばあい、エルをジカンともかんがえるから、ジカン イコール ダブリ
ユブンのイーともいえる（なぜティ「タイム」にしないかというと、かならずしもなが
れるわけではないからだ。ティシしたら、タイムというのかわからないので。）。

ティ(ジカン) イコール
イー(エネルギー) わる
ダブリュ(シツリョウ)

しかし、どうやってそれがうごくかまではセツメイできない。うごかなかつたらエル
とはいえない。だから、「ジカン」についていうときはただしいかもしれないが、うごく

をネットウにおくとジャツカンテイセイがヒツヨウである。

うごくとはなにか。それはニンゲンのばあい、あるシツリヨウをへらしてドウリヨクにかえることである。グタイテキにはタンスイカブツやサンソをサイボウがドウリヨクにかえることだ。かえたあとのものをコキユウやベンによりハイシユツする。サンソをとりいれ、ニサンカタンソをだす。タンジュンなブンシキゴウのヒカクではだすホウがシー（カーボン）のブンおおい。つまりそうやってドウリヨク（サイボウタンタイをふくみ）をえるためにシツリヨウ（シー）をへらしている。モチロンたべることをするのでシツリヨウはまたゾウカする。しかし、ウンドウメンにかぎっていえば、シツリヨウはゲンシヨウする。ロケットのばあいはうごくたびにネンリヨウをシヨウヒする。だからつかったネンリヨウのブン、シツリヨウはへる。そうやってウンドウをカイシするにシツリヨウがイチジテキにせよへるのである。

ジュウロク、『よ』ゴジュウニ

わたしがガクセイのころ、ウチュウのモシキズをみたことがある。それにはウチュウ

がまるくえがかれていなかったが、わたしはまるいのではないかとおもう（キュウがた）。コロッケのようなかたちだとしたら、ジョウゲからなにかちからがかかっているかとうはならない。しかし、そのアツリヨクとはなにかともおもう。かべでもあるのだろうか。すくなくともケンキュウシヤのあたまのなかにはある。

ジュウなな、『よ』ヒヤクなな

ニンゲンのななわりはみずでできているという。それをエキタイとしてホジしている。チヨウドそういうオンドでくらししているからだ。だからもつとあついとこころ、たとえばスイセイにいけば、ほぼジョウハツしてしまうし、さむいとこころ、たとえばドセイにいけば、ほぼかたまってしまう。だからそういうところでは、みずイガイのなかがみはヒツヨウだろう。たとえば、タイヨウのちかくならキンゾクだ。キンゾクがエキタイになって、からだをジュンカンできるだろう。ギヤクにタイヨウからおいとこころではチツソのようななかがみがいいだろう。やはりエキタイになってジュンカンできる。ユキユウもかんがえると、あついとこころではスイジョウキをつかい、さむいとこころではニ

サンカタンソなどをつかう。このようにかんがえると、ウチユウジンは、キンゾクでできていたり、チツソでできていたりするだろう。みずでできたニンゲンはとりあえずできてはいるが、ほかはどうかわからない。

ジュウハチ、『よ』ヒヤクゴジュウヨン

サンビヤクニジュツサイまでいきるホウホウがみつかった。ちよつとうさんくさいからヒヤクロクジュツサイにしておこう。ヒヤクロクジュツサイとはどういうことか。レイサイからヒヤクロクジュツサイまでのみちのりをあるくのにしている。つまりヒヤクロクジュツサイブンうごくわけだ。もちろんサイボウなんかうごくはやさをかえらるるわけではない。

「ジカン かける はやさが みちのり」という。ジカンやはやさがニバイになれば、ニバイのみちのりをすすむことができる。だからバイソクでうごければ、ニバイいきるよになる。それがコウリツカにもつかわれる。ここでの「コウリツカ」とはキギョウカツドウのである。だからガツコウでは「はやく」とせかされる。はやくできるホウがほ

められる。しごとがはやければ、チンギンをすくなくしたり、しごとリヨウをふやしたりできる。それはケイエイシャにとつてわるくない。だから、ガツコウにニバイソクコースをつくればよい。と『アルクカラカンガエル』でいった。

しかし、ソクドだけではない。ジカンをニバイにしてもニバイのみちのりがあるける。そのジカンとはなにか。ツウジョウはチキュウがイツカイまわってイチニチである。そのイチニチをバイにできるかという、それはむずかしい。とけいのニジュウヨジカンのあいだにニカイまわることだからだ。それはいつてみると、ガイブのモンダイだ。シゼンカガクテキなモンダイだ。ではそうでない「ジカン」とはなにか。ジブンがイシキするまである。それをもつとこまかくすれば、どういうことかという、コウツウジコのシュンカンに「ゆつくりものがうごくようにみえるというぐあい」である。イチビヨウのあいだにニビヨウブンのこまかさをもてばいいのである。コンピュータでいえば、サンプリングをニバイすればいいということだ。ベツにそれはいそぐわけではない。ただニビヨウブンのしごとができるというはなしである。

それができればツウジョウハチジュサイまでいきるところを、ヒヤクロクジュツサイブンいきるといふことができるだろう。ちなみにサンビヤクニジュツキロのはやさです

すむくるまがあつても、それだとヒヤクロクジュツキロにかんじてしまふが、それでこそいとおもうなら、ロッパヤクヨンジュツキロでくるまをつくればいい。

ジユウキュウ、『よ』ヒヤクロクジュウニ

むしがわたしのコップのなかにはいつていた。キュウシュツしてみたが、どうもフツカツするきざしがない。スイシ、イチである。なぜ、むしがコップのなかにはいるか。ニンゲンをみればわかる。きもちいいだろうとおもつて、かわやプールにはいるのである。むしだってそうなのだろう。しかし、ときにジコがおこる。ニンゲンだっておぼれるのだ。むしにしたってそうなのだろう。このなつはヨンケンぐらいキュウシュツした。ザンネンながら、イツケンをのぞいて「デキシ」である。

ニジユウ、『よ』ヒヤクハチジュウヨン

なぜタイヨウのまわりをワクセイがまわるか。それは、コウセイをチュウシンにまる

でうずをまくようなちからがはたらいているからだろう。わたしはそれをうずまきリョクとよぶ（●よん、『ア』ヒヤクロクジュウサン、キュウ、『む』ハチジュウハチ）。

そして、コウセイがもえさからなくなつたらどうなるか。まず、コウセイからはなされるブツシツ（たとえばスイソなど。「ひかり」といったホウがわかりやすいかもしれない。）がはなたれなくなる。すると、そのブツシツによつてたもたれていたコウセイとワクセイとのキヨリがちぢまる。ニホンのウチュウケンキュウキカンがセイゾウしたエンジンのゲンリをかんがえれば、「ひかり」で、なにかものをスイシンさせたりすることはカノウということがわかるだろう。そしてやがてコウセイにのまれてしまう（それをブラックホールというようだが）。

そのあとどうなるか。もし、あるケイトウをカイリヨウしたホウがいいとなると、これはシュギ、シュチヨウがわかるだろうが、それまではなつていたエネルギー、ブツシツをすべてカイシユウして（うずまきリョクをつかえばカノウだ。）またもえるではないか。むかしのオウベイジンだろうか、しぬことを「テンにめされる。」といった。これはどういうことか。これは、コウセイのもとへいってネンリヨウになるということではないか。そうすれば、のこされたひとたちには、ヘイワが（いつもどおり）ケイシヨウさ

れるのである。

アンガイ、「カガク」がハッテンしたというゲンダイのホウがそういうメンににぶいかもしれない。でも、「リセット」されそうになったら、タイヨウケイのそとにげるというのもわかるはなしだ。ウチュウセンでベツのケイトウににげれば、あるワクセイでハッタツした「ニンゲン」もいきのびるだろう。だが、それをダイダイテキにやったケツカ、「ニンゲン」がハッセイしたケイトウが「サイセイフノウ」になるのは、ただしいかとうとむずかしい。たしかにセツカク、シンカしたのだからである。でも、そういうリセットはたびたびおこっているようにおもわれる。だから「ウチュウ」がひろがっているというのは、みているわたしたちのセイゾンへのキボウがひろがっているだけのことかもしれない。ウチュウもやはり、ブツシツをカイシユウしようとするわけだろうか。

ニジュウイチ、『オンガクイチエンのジダイ（イカ、「オ」）よん

エーからビーにすすむのに、イチビヨウウかかれば、イチビヨウウカンかかったという。

くるまにしても、くるまでもヒコーキでもイドウするにはジカンがかかる。くるまにしても、ヒコーキにしても、ニンゲンがつくりだしたものである。それはチキュウジョウでソクドのはやいブルイだろう。いまのところイチバンはやいとされているのが「ひかり」である。これはニンゲンがつくりだせるか。たしかにデントウはつくったようだ。ところで、イドウにはエネルギーがヒツヨウである。くるまならガソリン、ヒコーキならジェットネンリヨウである。それはどうシヨウヒされるか。おおきいものをうごかすと、よりおおきなエネルギーをヒツヨウとする。ちいさなものならすくなくすむ。それからなにかいえないか。そう、「ひかり」よりもちいさなブッシツをつくれば、ひかりよりはやくイドウできるだろう。これを「こまびかり」といおう。なんのやくにたつかはわからないが、チキュウジョウのリヨウだけでも、ジョウホウがはやくうごくようになるわけだから、セイサンセイがあがるだろう。

ニジユウニ、『オ』ゴ

わたしがまえにかいたホン『よろこぶゲンシジン』に、わたしがかんがえたジカンリ

ヨコウ（タイムトラベル）のゲンリをかいだ（●ジュウニ、『よ』ニジュウイチ）。ゲンリだけでなく、セツケイもカンタンだが、セツチがむずかしい。コンカイはそのカイゼンパンについてかく。

カンタンにいえば、イチネンマエをみるために、ハンコウネンさきに（オウフクでイチネン）かがみをおくのではなく、チキュウジョウにかがみをおくのだ。そのかがみは、イチネンまえのひかりがみえるように、タイリョウのかがみによるハンシヤをくりかえして、イチネンブンドウするようにハイチする。これでイチネンまえがみえるわけだ。ただ、カコのひかりとゲンダイのひかりでコンランしないように、カコのひかりはしろくろにするなどのシヨリをしたホウがいいとおもう。

ニジュウサン、『オ』ハチ

セツチヨで、ジカンとはエネルギーわるシツリョウといった（●ジュウよん、『よ』、ニジュウハチ）。

ティ(ジカン) イコール
イー(エネルギー) わる
ダブリュ(シツリョウ)

もっとタンジュンにいえば、エネルギーわるシツリョウがコウゾクキヨリである。それをセイリするとシツリョウがはじきだせる。そんなことをしなくてもはかりではかればシツリョウはだせるだろうが、それでだせるのは、チキュウジョウでのおもさである。つきでそのはかりをつかつてはかれば、スウジがかわってくる。
シツリョウはエネルギーわるジカンである。

ダブリユ(シツリョウ)

イコール イー(エネルギー)

わる ティ(ジカン)

エネルギーがおおきくても、ジカンがレイ(ジリキでうごけないといえればよいだろう。)ならばシツリョウもレイになる。これはどういうことか、あなたのいえのジシヨはジリキでうごけないから、シツリョウがレイということになる。おもさはあるじやないかだが、ウチュウにおいておけば、なにかちからをくわえないかぎり、うえにもよこにもうごかないということだろう(コウセイからのうずまきリヨク「インリヨク、●よん、『ア』

ヒヤクロクジュウサン、キュウ、『む』ハチジュウハチ、ニジュウ、『よ』ヒヤクハチジュウヨン」でひつばられるとおもうが。しかし、チキュウがうごいているために（このレイでいえばエンジンだ。）ジカンがレイではない。そのためにシツリヨウがあるとなる。

おもしろいのが、ジカンがレイかレイでないかである。フツウ、ニンゲンが「モノ」というモノは、ジリキでうごけないから、シツリヨウはレイである。しかし、セイタイだと、レイイジヨウになる（たとえば、チキュウジヨウであしをつかっとうごくだろう。ウチュウでは、てあしをうごかしてもすすめないかもしれない。）そうやって、セイタイとモノをハンベツできる。モノでもロボットはうごくから、シツリヨウがレイイジヨウになる。だから、ランボウないかたをすると、ロボットはセイタイといえるかもしれない。だから、ロコモーティブ（うごき）をはかっても、シツリヨウをはかってもセイタイかどうかはソクテイできるのである。

わたしがギロンする「タイムック（●ジュウよん、『よ』ニジュウハチ）」はジカン（テイイコール）テイイチ わる テイシー（タイムック）のテイシーである。

ティ(ジカン) イコール
ティイチ(イツコのケイのジカン)
わる ティシー(ジカンケイスウ)

つまり、ジカンにまつわるシツリヨウ(イドウにかんするシツリヨウ。たとえば、つき
のインリヨクなど。)をわりだせば、ゼツタイテキナジカン(イドウのイツテイセイ「キ
ヨリ」)がはじきだせるというものだ。タンジュンにいえば、ウチュウヒョウジュンジが
できるといふわけだ。

ただ、ジカンイコールゼツタイジカンかけるティシー(ジカンケイスウ)のシキ

はインリヨクがレイになると、レイになってしまう。

ティ(ジカン) イコール

エーティ(ゼツタイジカン)

かける ティシー(ジカンケイスウ)

そんなことはありうるかであるが、ウチュウのなかではそういうジヨウケンはないとおもわれる(ヨダンだが、たとえばみつつのコウセイのまんやかに、ハイチされるなにかがあったばあいには、ジカンがレイになることはあるかもしれない。これをわたしはデッドロックとよぶ)。だからこれでいいとかんがえている。わたしは、ウチュウはサイセ

イ(リサイクル)されたホウが(いまやるということでない。)いいとおもっているので、
そうかんがえる。

このセツはカイテイしました。イカ、ゲンブン。

ニジユウサン、『オ』ハチ

ゼンチョで、ジカンとはエネルギーわるシツリヨウといった(●『よ』、ニジユウハチ)。

もつとタンジュンにえば、エネルギーわるシツリヨウがコウゾクキヨリである。それをセイリするとシツリヨウがはじきだせる。そんなことをしなくてもはかりではかれはシツリヨウはだせるだろうが、それだせるのは、チキュウジョウでのおもさである。つきでそのはかりをつかつてはかれば、スウジがかわってくる。

シツリヨウはエネルギーわるジカンである。エネルギーがおおきくても、ジカンがレイ(ジリキでうごけないといえはよいだろう。)ならばシツリヨウもレイになる。これはどういふことか、あなたのいえのジシヨはジリキでうごけないから、シツリヨウがレイということになる。おもさはあるじやないかだが、ウチュウ

においておけば、なにかちからをくわえないかぎり、うえにもよこにもうごかないということだろう（コウセイからのうずまきリョク「インリョク、●『アルクカラ カンガエル』、イカ、『ア』、ヒヤクロクジュウサン、ニヒヤクサンジュウ、『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』、イカ、『む』、ハチジュウハチ、『よ』ヒヤクハチジュウヨン」でひつぱられるとおもうが。）。しかし、チキユウがうごいているために（このレイでいえばエンジンだ。）ジカンがレイではない。そのためにシツリョウがあるとなる。

おもしろいのが、ジカンがレイかレイでないかである。フツウ、ニンゲンが「モノ」というモノは、ジリキでうごけないから、シツリョウはレイである。しかし、セイタイだと、レイイジョウになる（たとえば、チキユウジョウであしをつかっとうごくだろう。ウチュウでは、てあしをうごかしてもすすめないかもしれない。）そうやって、セイタイとモノをハンベツできる。モノでもロボットはうごくから、シツリョウがレイイジョウになる。だから、ランボウないかたをみると、ロボットはセイタイといえるかもしれない。だから、ロコモータイプ（うごき）をはかっても、シツリョウをはかってもセイタイかどうかはソクテイできるのである。

わたしがギロンする「タイミック（●『よ』ニジュウハチ）」はジカン（テイ）イコール テイイチワルテイシー（タイミック）のテイシーである。つまり、ジカンにまつわるシツリョウ（イドウにかんするシツリョウ。たとえば、つきのインリョクなど。）をわりだせば、ゼツタイテキナジカン（イドウのイツテイセイ

「キヨリ」がはじきだせるといふものだ。タンジュンに言えば、ウチュウヒヨウジュンジができるというわけだ。

ただ、ジカンイコールゼツタイジカン、わるインリヨクのシキはインリヨクがレイになると、レイになつてしまう。そんなことはありうるかであるが、ウチュウのなかではそういうジョウケンはないとおもわれる（ヨダンだが、たとえばみつつのコウセイのまんなかに、ハイチされるなにかがあつたばあいに、ジカンがレイになることはあるかもしれない。これをわたしはデッドロックとよぶ）。だからこれでいいとかんがえている。わたしは、ウチュウはサイセイ（リサイクル）されたホウが（いまやるといふことでない）いいとおもっているの、そうかんがえる。

ニジュウよん、『オ』ニジュウよん

なぜテンにめされるといふいいかたをするか。それはウチュウをサイセイサンしたホウがいいからである（と、わたしはかんがえる）。どういうことか。ウチュウはひろがりつづけているという。ベツにそんなおおきくかんがえなくてもいい。タイヨウのもっているすべてのシザイをホウシュツしてしまつたらどうなるか（ひかりもシザイであ

る。)。タイヨウはもえなくなり、タブン「ブラックホール」になるだろう。そしてもとのシゲンはとおくにいつてしまっている。またもえるのをサイカイさせようとおもったらどうか。またシザイをあつめるしかない。だから、ブラックホールはいろいろとすいこむといわれるのではないか。またシザイがあつまれば、またもえることができるのだ。つまり、ニンゲンなんかはテンにめされたホウがよいのだ（あなたがタイヨウケイのながつづきをキボウするのならだが）。そうすればタイヨウはながくつづく。テンにめされてもいいし、リンネテンセイでもいいのである。

ニジュウゴ、『オ』サンジュウキユウ

ウチュウはどんなかたちか。わたしがガクセイのころ、とつがたのズをみたことがある。ひらべつたいが、チュウシンフキンはでっばっている えである。しかしホントウにそうなのか。わたしはいまのところ、たしかめようもないが、キユウケイをカテイしている（カツテカガクをやっています）。なにかちからがからないと、ヘンペイにはならないからだ。えにかいたひと、もしくはそのかたちをテイショウしたひとは、なにか

ちからがかかっているとカテイしているのだろう。ジッサイにそうなっているかはともかく、すくなくとも、かれらのシンリコウゾウのなかではそうなのだろう。イッタイどんなちからがかかっているのだろうか。

ニジユウロク、『オ』ゴジユウニ

「うまれかわり」などという。「ゼンセイはなんだったか。」というはなしも、わたしがこどものころにきいたことがある。それはイデンのはなしではない。マテリアルのはなしである。

エーさんというひとがいたとして、そのエーさんのイチブは、もとうしや、もとホウレンソウでできていることは、ヨウイにソウゾウできる。わたしも（このいいかたがテキストかはわからない。「わたし」は、ジヨウホウであるカノウセイがあるからだ。）、そういうぐあいである。わたしがしんだら、タブン、カソウされて、ほねとキタイとさすがのこるんだらう。そこからどうリサイクルされるか、なんかのドウブツ、シヨクブツのかてになるかはわからない。ほねは、はかなどでホゴされるだらうし、キタイはふ

たたびりクチにおりてこなければわからないし、かすはカソウジョウのゴミとしてショリされるのだろう。

こういうかんじでは、「うまれかわり」はゼツボウテキだ。わたしはドソウができないのなら、サンコツとかジユモクソウにしてもらいたいかもしれない。サンコツやジユモクソウなら、シヨクブツにほねがキュウシュウされて、それがドウブツにたべられてという「うまれかわり」がセイリツする。わたしをかりにマスター（シソ）としたら、そのイチブたちがうまれかわりをするわけだ。その「イチブ」をワンスルーということにする。ワンスルーがうまれかわりをするということは、もののリサイクルである。だからそうするばあいは「ライセイ」のはなしにもなる。

くさからドウブツ、そしてニンゲンになればたいしたものだ。そういうわたしもカコのだれかのワンスルーがふくまれていくかもしれない。ヨウするに、ゼンセイのゼンセイがニンゲンだったかもしれないのだ（ゼンセイはシヨクブツかドウブツがほとんどだろう。たまにキンルイとかコンチュウもあるかもしれない（きのこ、いなごなど））。

だからゼンセイをさかのぼっていくと、やっぱりマスターにいきつくだろう。ニンゲンのマスターのことをセイシヨではゲンキュウする。そこからまえのはなしになると、

どうもたちがわかれるようだ（かみがつくつたとか、シンカしたとか）。マスターヒューマンのゼンセイはどうだったか。やっぱりくさとかドウブツだったとか、かんがえるのがシゼンでないか。イデンシをしなければわかるといったって、サイボウのフクセイギジュツはジョウホウである。ものがなければフクセイはできない。もののありかたにオウじて、ギジュツがハツテンしたのではというきがする。

だから、くさとかドウブツのブンシをしなければ、かこにあったもの、シンカするまえのくさ、ドウブツのすがたがソウゾウできるのではないかとおもう。しかし、くさ、ドウブツ、プリヒューマン、ヒューマンというジュンカンはそれほどかわらないとおもう。だが、セツキ、テツキをハツタツさせるまえの「プリ」ヒューマンはドウブツのセツシユがすくなかったようにおもう。だからゲンシテキナヒューマンは、くさ、プリヒューマンというジュンカンだっただろう。「はか」をハツタツさせるまえだったら、くさ、「プリ」ヒューマン、ドウブツだっただろう。つまりドウブツのホウが、カイソウがたかいのだ。それをマイソウギジュツのハツテン（はじめのうちは、ユウリヨクシヤだけだっただろう。）により、「プリ」ヒューマンがカイソウをあげた（もはやヒューマンかもしれない）。セツキのハツタツもジュウヨウだが、それでもやっぱりドウブツのホウ

がうえとなる。もつとまえになると、シヨクブツよりカイソウがひくかったかもしれない。つまり、うごけないプリプリヒューマンである。シヨクブツ（こけのような）にキセイされるようなプリプリヒューマンである。

プリプリヒューマンのまえはわからないが。さるからハツテンしたといわれたりするが、ホントウのところはわからない。さるはさるでのこつていわけだから。イデンシがにているといつてもそれはシヨクリヨウのキンジであろう。それともコンゴ、ポストヒューマンをみとめるのだろうか。ポストヒューマンをみとめるとしたら、シンカのズシキにあるようなえだわかれもカノウだろう。まあ、ブゾクあらそいなんかしてもしようがないのだが。

ひとついえるのは、セイシヨがかかれたのは、はかがハツタツしたあとだろう。それかドウジキだったかもしれない。だから、「ニンゲンがチキユウをシハイ」なのだ。エジプトおうのコウセキがおおきいだろう。あんなおおきなはかをつくつたのだから。そのまえはほかのドウブツがチヨウテンだった。もしヨゲンシヤがジュウヨウなものハツテンのときにあらわれるのなら、セツキをつくつたときにもあらわれるはずだ。ただそれをキロクするものがなかったかもしれない。ただ、はかとドウヨウにフキユウした

だろう。ただ、ニホンにはイッパンテキに「サイゴのシンパン」のかがえがないので、もやしてしまふのだろう。リンネテンセイのホウがいいとおもうのだが。

ニジユウシチ、『オ』ゴジユウなな

さきにはなした「ゼンセイ」のはなし（●ニジユウロク、『オ』ゴジユウニ）は、もののはなしである。イデンシによってサイボウがフクセイされるというのは、どちらかというものはなしではない。「もの」はほかにヒツヨウだからだ。だから、ジヨウホウとかギジュツである。サイキンは「ゼンセイ」のはなしをあまりしなくなった。むかしはだれかがしているのをきいたものだ。「オカルト」とかそっちのホウのあつかいになっているかもしれない。そういうわたしも、そのてのはなしは、すきではなかった。ヒカガクテキなはなしのようにおもっていた。

しかし、よくかんがえてみると、「もの」のはなしである（ニンゲンのからだをコウセイするブッシツの）。だからそれはたしかなのである。ただそれがどこからどこにいったといったはなしは、タイテイオクソクだからウサンくさい。そういうことである。ジヨ

ウホウにはいいカゲンなそれがある。ただそれだけだ。

ところが、サイキンそのはなしをしない。どうもイデンのホウが、セツトクリヨクがあるのだろう。ガツコウでもおそわる。しかし、それがどのザイリヨウをつかつてカノウになるかはあまりいわない。セツメイはカノウだろうが、そういうものはなしはしない。そういうのを「ジヨウホウカシャカイ」というのだろう。そのジヨウホウをしかったって、ものがなければくみたてられない。だからしようがないといえましょうがないはなしなのである。そういうものぬきのはなしにどこまでたえられるか。オンガクもビデオもホンもデンシカ。もののないなにかである。むかしはジンリキでつくっていた。それをアートとよぶ。どこまでジヨウホウカするのかはわからないがアートをダイジにしたい。

ニジュウハチ、『オ』ゴジュウキュウ

ワンスルーのはなしをした(●ニジュウロク、『オ』ゴジュウニ)。マスターヒューマンのイチブだったそれには、マスターヒューマンのほかのイチブというキョウダイというかド

ウシというかがあるだろう。マスターヒューマンがしんでブンカイすると、そのタスウのワンスルーはカクサンする。そしてつぎのシヨクブツやドウブツのコウセイブツになるわけだ。センコワンスルーがあれば、センコのドウシヨクブツのコウセイブツになるかもしれない。そうすると、そのセンコのワンスルーのエンで、センコのドウシヨクブツはキョウダイといえるかもしれない。それがくりかえされると、シンセキがふえていく。そうかんがえると、カケイでなくて、ものとして、ケッコウなかずのひととキョウダイであるといえそうなのだ。それをニンシキできるかはわからないがそういうエンもありそうだ。

ニジュウキュウ、『オ』ロクジュウキュウ

「はか」がセイブツカイにおけるニンゲンのカイソウをあげたことをシテキした（●ゴジウニ）。これはユウメイなのでエジプトおうのはかがある。こういったはかでもれば、ほかのドウブツにシタイをたべられないわけだ。それからキュウヤクセイシヨができた。「ニンゲンがほかのドウブツをシハイする。」とかかかっている。こうかかされると、

それをタツセイするために（ほかのドウブツにたべられるようじゃ、くらいがたかいとはいえない）、ほかをつくるだろう。だから、キリストキョウは、ほかのシュウキョウとよべるかもしれない。

それをヨーロッパではニセンネンほどつけ、ジュウキウセイキになってニーチエがでてきた。かれは、「かみはしんだ。」といい、サイセイをといた。ほかのなにかにサイセイされるということ。その「サイセイ」というのは、「リンネテンセイ」のようなはなしでないか。つまり、ニセンネンほどニンゲンがセイブツカイでサイジョウイとして、ほかのドウブツにたべられないようにしていたが、そうではなく、ニンゲンもリサイクルしたホウがいいということではないか。たしかにキリストキョウカイのセイリョクが、よわくなっているとき。しかし、マイソウについては、サンコツやウチウソウなどでてきたが、まだフツウのマイソウがおおいとおもわれる。たしかにリサイクルのシソウはひろまっているようだが、まだニンゲンのカイソウをおとすようなかんがえが、タスウにシジされにくいとおもわれる。そういうイミではまだ「かみ」はしんでいないのである。ただ、このゴはどうであらう。

サンジュウ、『オ』ななジュウゴ

ウチュウのはじまりは「ビッグバン」でセツメイされることがある。バクハツだから、ウチュウはそとがわにむかつてひろがつていく。そうすると、バクハツのチュウシンでは、ものとうかシゲンとうかはすくなくなるだろう。それでそとへむかつてシゲンがイドウし、ウチュウはどうなるのか。

ここでいいたいののは、ウチュウのサイセイサンはどうなるのかということだ。そんなことするかといわれるかもしれないが、ながもちするといいだろう。タンジュンなコウセイのばあい、やがてもえきつて、「ブラックホール」になるとおもわれる。それで、うそかホントかはわからないが、シゲンをよびもどすわけである。これならサイセイサンである。ウチュウジタイもやはりそうなのでないか。ムダにしないようなくみがあるじゃないかとおもう。ちいさなまるとドーナツがたのくりかえしでないか。

サンジュウイチ、『オ』ハチジュウイチ

ニホンでは、ひとがしんだあと、そのシタイをカソウする。そうすると、ほねだけがのこる。それをマイソウする。しかし、それはちよつとどうなのかともおもう。なぜはかにマイソウするかといったら、ひとつはさききのべたように(●ニジュウロク、『オ』ゴジュウニ、ニジュウキュウ、『オ』ロクジュウキュウ)、ほかのドウブツにたべられないようにするためだといえる。これはキリストキョウケイのカチカンであろう。そうやってニンゲンのくらいをイジするのである。

しかし、「リンネテンセイ」だとか「サイセイ」また「リサイクル」というひともいる(●ニジュウキュウ、『オ』ロクジュウキュウ)。それだったらほかのドウブツにたべてもらったホウが、いのちのエイゾクセイがあるともいえる。つまり、あるひともっていたブツシツとしてのからだ(わたしはワンスルーといっている)〔●ニジュウロク、『オ』ゴジュウニ〕。が、ほかのドウブツ、シヨクブツにひきつがれるのだ。だから、きみのライセイはたぬきか、などとはなしができる。

かならずしもキリストキョウのように、「ニンゲンがほかのドウブツをシハイしなければならぬ。」ではないから、そうやってリサイクルをすればいいようにもおもえる。たしかにテンにめされることも(●ニジュウよん、『オ』ニジュウよん)(セイブツではなくて)、

もののメンでダイジかとはおもうがテキトウなバランスをみて、リサイクルをすればともおもう。カソウしてゼンメツさせなくてもとおもう。「テン」にめされるとナンオクネンとシンカしたのをもうイツカイとなるし、「テン」にめされないひとも、「リサイクル」され、ゲンダイのセイメイのホゼンにひとカツヤクする。それでいいのではないか。

サンジュウニ、『オ』キュウジュウイチ

ガツキはなにかをシンドウさせておとをだす。そのギャクもある。おとがおおきいとなにかがシンドウしはじめる。そのシンドウでもおとがでる。しかし、あるシンドウがとまれば、やがておともやむ。そのおとによってシンドウしたなにかも、ふるえるのをやめる。そのまたおともやむ。チキュウジョウだと、シンドウはやがてとまるようだ。

レイガイテキにフィードバックというのがあつた。おととシンドウをジュンカンさせるわけである。これだといつまでもなつてゐる。ひかりはどうだろうか。ひかりから「シンドウ」のようなあるイベントをハツセイさせて、それをループすることができれば、ウチュウはおわらないような気がする。ひかりをサイド、(コウセイがもえつきそうになつ

ている) ブラックホールにかえし、コウセイにもどすのである。

サンジュウサン、『オ』キュウジュウニ

ニンゲンエーがイーにイドウしてエフにイドウした。これはわかりやすいはなしだ。エーがはじめデイにあつて、イーにいつてエフについたと。しかし、(たとえば) イッセンマンニンのひとがイツセイにエフをめざすといったときに、どれだけそれぞれのうごきがわかるだろうか(エフにちかづくことはわかるけれども)。それをセイリすると、ピーさんがイーにイドウした。シーさんがジーにイドウした。ダブリュさんがイーにイドウした。ほかタクサンとなる。ケツキヨク、なにかのチツジョ、たとえばジカン、なまへのジュンジョなどをつかつて、ひとりずつジュンジョづけていくのがわかるやりかただ。それをおこなってはじめて、そのレキシなどをえがけるようになる。いいカゲンなケイソクをすると、カンゼンなレキシとはよべなくなる。

しかし、これはコンキのいるサギヨウだ。かならずチヨクセンジョウにできごとがキジュツされるわけではない。たとえば、ハチジイップンゴビョウにシーさんがジーに、

ワイさんがイーにトウチャクすると、どちらをさきにキジュツしたらいいかわからない。そこでどうするかがモンダイとなる。こういうカダイ、かりに「タヨウジョウケン」のセツメイ」といっておく、をとくために、ふたつのセンをつかたりするのでないか。もしくはもつとこまかくジカンをはかる。そうすると、どちらがさきかわかる。それならひとつのセンでつづけられる。

ひとつのセンにするというと、まるでゲンザイのカガクのようなこまかいケイソクがヒツヨウになるのだろう。つまり、それを（カガク）をやっているうちは、レキシはひとつでありそうなのである。「タヨウ」だからしょうがないのだが、それをキレイにセツメイしようとするドリヨクは、いろいろなおこなわれている。

サンジュウよん、『オ』キュウジュウゴ

ニンゲンのリサイクル（テンにめされる。）のはなし、ウチュウのイジのはなしをした（●ニジュウよん、『オ』ニジュウよん、サンジュウイチ、『オ』ハチジュウイチ）。そうするとながらもちするわけだ。しかし、ジュウヨウなともある。それは、セツカクできたニンゲンは

どういきるかというはなしである。

そういう「ながもち」をかんがえなければ、カッテにいきて、カッテにしねばいいんじゃないかとなる。ばあいによつてはウチュウがほろびても、ニンゲンだけがいきのこればいいというかもしれない。しかし、タブン、ニンゲンはウチュウのイツコシゲンなわけだから、そのシステムにホウシすべきともいえる。かといつて、イツカイジンルイがほろびて、またあたらしくハツセイするようなことをくりかえすというのも、なんだかバカらしいきがする。もうナンカイもニンゲンはほろびたのかもしれない。はたしてニンゲンはどういきるべきか。メイワクかけないテイドにおもいおもいにいきればいいのかな。

サンジユウゴ、『オ』キユウジュウなな

タヨウジヨウケンのはなしをした(●サンジユウサン、『オ』キユウジュウ三)。タヨウジヨウケンとは、いくつものインガをふくむセイリしづらいゲンシヨウなどである。そういうのをセイリしていくと、ホウソクがみつかるかもしれない。むかしのひとはカンタンな

ジョウケンからいくつものホウソクをみいだしていた。それをわかいひとはガツコウでまなぶ。カガクシヤになるひとは、そういうモンダイにチヨウセンするだろう。

しかし、どうもサイキンはコンピューターだよりのきがする。トウケイデータをてケイサンすることもできるが、あまりそういうことをするひとはおおくないだろう。ケンキユウがコンピューターイゾンになっているということだ。それはアートではない（●ニジユウシチ、『オ』ゴジユウなな）。たしかにコンピューターのハツタツにより、よりフクザツなジョウケンでもセイリしやすくなっただろう。ただ、そんなかんじでケンキユウするなら、ケンキユウシヤのままえをかくところに、まるまるコンピューターなどと、ヘイキするといいかもしれない。ニンゲンがケンキユウしているのか、うたがわしいからだ。

サンジユウロク、『オ』ヒヤクジユウなな

タイヨウはうずまきリヨク（あたりのものをカイテンさせる）がある（●よん、『ア』ヒヤクロクジユウサン、キユウ、『む』ハチジユウハチ、ニジユウ、『よ』ヒヤクハチジユウヨン、ニジユウサ

ン、『オ』ハチ)。だからチキユウがコウテンする。しかし、チキユウにもやはりうずまきリヨクがある。つきがまわるからそういえる。うずまきリヨクとはなんなのか。

わたしは、もえることのケツカだとおもう。タイヨウはもえている。チキユウもまたナイブではもえているとされる。たまにフンカするのがそれだ。よく、「とんでひにいるなつのむし」という。ひのあたりにいるむしが、ひのなかにはいつてしまうということばだ。このように、ニンゲンにはかんじづらいが、ひのホウにながれるうずがあるのではとおもう。それならチキユウも、のまれちゃうではだが、ひかりなどのアツリヨクで、セッキンしないものとおもわれる。

サンジユウなな、『オ』ヒヤクジユウハチ

タイヨウケイはやがてタイヨウがブラツクホールカシ、いろいろブツシをひきよせてサイセイをはかる(●よん、『ア』ヒヤクロクジユウサン、ニジュウ、『よ』ヒヤクハチジユウヨン、ニジュウよん、『オ』ニジュウよん、サンジユウ、『オ』ななジユウゴ、サンジユウニ、『オ』キユウジユウイチ)。そうなるとチキユウにすむニンゲンもよばれるわけだが、おとなしくネンリヨウになる

だけでよいのだろうか。

セツカクきずいたブンメイも、チキユウごとネンリヨウにされては、もはやつづかない。にげていきのびるにせよ、なにもないところからまたはじめなければならぬ。それでいきのびられるかはフメイだが、そうすることもできる。どこかケイトウガイのワクセイにふたりのニンゲンをおくりこむ。そのふたりがいきのこるかはわからないが、それはまるでセイシヨのはなしのようである。ふたりがいきのこれそうなどころをさがして、おくりこむのもいいかもしれない。これがはじめてかはわからないが。

サンジユウハチ、『オ』ヒヤクジユウキユウ

ひかりはなぜすすむか。なにかうごきだすきつかけがあるのだろうか。また、そういうきつかけとはベツに、ひかりがイドウすることによる、ベツのものイドウもおこっているのではないか。タンジュンにいえば、カイチュウをふねのドウタイがイドウして、みずがふねのシンコウホウコウとはギャクにイドウするというぐあいである。そうだとしたら、わたしたち、なのかだが、は、ひかりをえるとドウジに、なにかをうしなっ

ていることになる。それがなんなのかわたしは、いまのところわからない。

サンジユウキュウ、『オ』ヒヤクよんジユウロク

「ロンリテキシコウ」などという。ゲンインからケツカまでをチヨクセンテキにセツメイすることをそういつたりするだろう。そうやって、タシヨウヘイレツはあるかもだが、ものごとをチヨクセンテキにキジュツする。それはなぜか。ニンゲンはことばをドウジにフクスウつかえないからである。たとえば、「みかん」といいながら「コーヒー」ということはできない。だから、チヨクセンテキにキジュツするホウホウをとる。ことばのセイシツからそうなるわけである。

しかし、よのなかはケツしてチヨクセンだけでセイリツしているわけではない。エーさんがたまけりをしていて、ビーさんがさけをのんでいるなんてバメンもあるだろう。ことばとしては、どちらかがさきで、どちらかがあとにされるだろうが、それはドウジになされているし、ニンゲンもそれはドウジになされていることをニンシキする。だから、しかたがないのだが、エーさんがたまをけり、ビーさんがさけをのんでいるという

セツメイがただしとはかぎらない。モチロン、ビーさんがさけをのんでいて、エーさんがたまけりをしているでもない。ニンゲンのことばのツゴウジョウ、そういういいかたをするだけであつて、ベツにただしわけではない。

まえにタヨウジョウケンのはなしをしたが（●サンジュウサン、『オ』キュウジュウニ、サンジュウゴ、『オ』キュウジュウなな）、そういうはなしである。ことばジョウはどちらかがさきになるが、ゲンジツはヘイレツテキにうごいてるのである。そして、ニンゲンも、チヨクセンもリカイするが、ヘイレツもリカイする。だから、チヨクセンテキなことばがただしとはかぎらないのである。というよりも、ことばのセイシツジョウ、ことばでセツメイするのはあやまりといえるかもしれない。それがわかっているからか、わたしはあまりおしやべりではない。しずかにカンサツするのもすきである。

ことばにすると、イチリンのはながさいている。そしてもうイチリンもさいている。だが、ジュウリンのはながさいていることをみていたりする。チヨクセンテキなシコウもきらいではないが、ヘイレツテキなプロセスもダイジなのではとおもう。しかし、ことばをつかうのだったら、チヨクセンにならざるをえない。たぶん、そういうわけだから、ブンメイジンはチヨクセンテキにかんがえたホウがいいだろう。

よんジュウ、『オ』ヒャクゴジュウロク

うずまきリヨクがあるから、そのちかくのものは、うずまきにひきよせられる(●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン、キュウ、『む』ハチジュウハチ、ニジュウ、『よ』ヒャクハチジュウヨン、ニジュウサン、『オ』ハチ、サンジュウロク、『オ』ヒャクジュウなな)。そのギヤクホウコウのちからがあつたらどうなるか。ひかりさえもよせつけない、まっくらなセカイになるだろう(●サンジュウロク、『オ』ヒャクジュウなな)。ウチュウにひとのすめるようなクワンをかんがえると、ひるとよるがあつたホウがいいのでは、とかんがえたりするだろう。そういうときにギヤクうずまきリヨクをつかえれば、ひるとよるができる。しかし、もつともタンジュンなカイケツサクは、よるみたいにしたければあいは、シャッターをしめることだ。そうすればくらくなる。

よんジュウイチ、『オ』ヒャクロクジュウイチ

ウチュウはくろいというイメージがある。くろはひかりをキュウシュウするから、と

おくのほしのひかりもチキユウからみえるのだろう。だから、ひかりをハンシヤするといふしるでウチユウクウカンがコウセイされていたら、とおくのほしからのひかりは、とどかないとおもわれる。ニンジュツでいうくもがくれだ。そういうわけだから、ウチユウのそとがしろいクウカンでできていたら、ひかりがハンシヤしてウチユウにもどるだろうから、ウチユウはながもちするだろう。

よんジュウニ、『オ』ヒヤクロクジュウニ

セツチヨ『アルクカラカンガエル』で、うずまきリヨクのことをかいた(●よん、『ア』ヒヤクロクジュウサン、キユウ、『む』ハチジュウハチ、ニジュウ、『よ』ヒヤクハチジュウヨン、ニジュウサン、『オ』ハチ、サンジュウロク、『オ』ヒヤクジュウなな、よんジュウ、『オ』ヒヤクゴジュウロク)。うずまきリヨクとはなにかという、よくいわれるいかたでセツメイすると、「ジュウリヨク」である。タイヨウのまわりをはなれずに、ワクセイがまわるちからのことだ。「ジュウリヨク」でいうと、ジュウリヨクが、タイヨウにちかづくちから、「エンシンリヨク」がタイヨウからはなれるちからだろう。

なぜ、その「うずまきリヨク」があるか。「とんでひにいるなつのむし」という(●)サンジュウロク、『オ』ヒャクジュウ(なな)。ベツにひにちかづかなくてもよさそうだが、ひのなかにむしがいってしまふ。そこからかんがえると、うずまきリヨクとはもえることが、つくりだすとかんがえられそうだ。フツウによくいわれるはなしでは、「もの」にジュウリヨクがあるとかわれている。しかし、そうでなく、もえているところから、うずまきリヨクがハツセイするのである。よくいわれるようにいうと、もえているからジュウリヨクがハツセイするのである。チキュウもナイブではもえているし、ほかのワクセイももえているだろう。ウチュウでひをたくと、そこに、うずまきリヨクがハツセイするということだ。だから、ウチュウのごみソウジはアンガイカンタンかもしれない。

よんジュウサン、『スーペリアーをみつけた。(イカ、「ス」)』ジュウキュウ

カコをみるボウエンキヨウのはなしをした(●)ニジュウニ、『オ』ゴ。イチネンまえのひかりをみれば、イチネンまえがみえるというわけだ。しかしそれなら、おおきなセツピをととのえて、カコをみなくてもいいかもしれない。ビデオカメラにキロクすればいい

からだ。

ただ、それでイチネンまえをみたところで、ジカンリヨコウをしたきにはならない。それなら、カコのエイゾウとコミユニケーションすればいいかもしれない。たとえば、イチネンまえのエイゾウに、「あしたははれるか。」ときいて、エイゾウのひとが、「はれますよ。」とこたえる。このうけこたえを、エーアイをつかってやれば、ジカンリヨコウしたきになるかもしれない。それで、「いや、あしたはあめふるんだよね。キロクにそうある。」などとほなせばよい。カソウジカンリヨコウであるが、おもしろいかもしれない。

よんジュウよん、『ス』ニジュウ

ジカンイコールゼツタイジカンかけるジカンシツリヨウのはなしをした(●ニジュウサン、『オ』ハチ)。

ティ(ジカン) イコール

エーティ(ゼツタイジカン)

かける ティシー(ジカンケイスウ)

カンタンにいうと、ジカンシツリヨウ(いろいろなほしのインリヨク「ウズマキリヨク」)
のエイキョウをのぞけば、ゼツタイジカンがかぞえられるというはなしだ。

そして、ジカン イコール エネルギー わる シツリヨウ(ジカンをロコモーターイブ「コ
ウヅクキヨリ」とよみかえれば、わかりやすい。●ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』
サンジュウニ)だから、いくつかのコウセイにかこまれて、インリヨクがつりあつて、その

チユウシンにあるなにかが、まったくうごかないとなると、エネルギーイコールレイゆえにジカンイコールレイになる(●ニジュウサン、『オ』ハチ)。

ティ(ジカン) イコール
イー(エネルギー) わる
ダブリュ(シツリョウ)

エル(ウンドウ) イコール
イー(エネルギー) わる
ダブリュ(シツリョウ)

スウシキジョウは、ジカンがながれないことになる。これをデッドロックといおう。ジツサイのウチュウにこういうデッドロックがあるかはわからないが、このデッドロックはウチュウのケンキュウにつかえそうなのである。

このデッドロックのチュウシンにコタイがあるとす。コタイはインリョクがつりあいうごかないが、やがて、インリョクにひかれてポウチョウするかもしれない。ベツの

いいかたをすると、オンドがあがるわけだ。それがつづく、コンドはキタイになる。そのキタイはデッドロックのまわりのコウセイにひきつけられ、どうかしてしまっただろう。このデッドロックのチュウシンにあるのをウチュウゼンタイとカテイすれば、ウチュウはやがてウチュウのそとにいつてしまうということになる。これが、「ウチュウがボウチュウする」リユウなのでないか。そのゴ、キタイがひやされて、さらにコタイになつてもとのイチにもどれば、ウチュウのサイセイサンはカノウだろうが、どうもサイセイサンができることは、わたしはまだカクニンしていいない。

このセツはカイテイしました。イカ、ゲンブン。

よんジュウよん、『ス』ニジュウ

ジカンイコールゼツタイジカンわるジカンシツリヨウのはなしをした(●ニジュウサン、『オ』ハチ)。カンタンにいうと、ジカンシツリヨウ(いろいろなほしのインリョク「ウズマキリョク」)のエイキヨウをのぞけば、ゼツタイジカンがかぞえられるというはなしだ。

そして、ジカン イコール エネルギー わる シツリヨウ（ジカンをロコモータータイプ「コウゾクキヨリ」とよみかえれば、わかりやすい。●ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）だから、いくつかの Kousei にかこまれて、インリヨクがつりあつて、そのチュウシンにあるなにかが、まったくうごかないとなると、Energi イコール レイゆえに ジカン イコール レイになる（●ニジュウサン、『オ』ハチ）。スウシキジヨウは、ジカンがながれないことになる。これをデッドロックといおう。ジツサイのウチュウにこういうデッドロックがあるかはわからないが、このデッドロックはウチュウのケンキュウにつかえそうなのである。

このデッドロックのチュウシンにコタイがあるとすると、コタイはインリヨクがつりあいうごかないが、やがて、インリヨクにひかれてボウチヨウするかもしれない。ベツのいいかたをすると、オンドがあがるわけだ。それがつづくと、コンドはキタイになる。そのキタイはデッドロックのまわりの Kousei にひきつけられ、どうかしてしまふだろう。このデッドロックのチュウシンにあるのをウチウゼンタイとカタイすれば、ウチュウはやがてウチュウのそとにいつてしまふことになる。これが、「ウチュウがボウチヨウする」リユウなのでないか。そのゴ、キタイがひやされて、さらにコタイになつてもとのイチにもどれば、ウチュウのサイセイサンはカノウだろうが、どうもサイセイサンができることは、わたしはまだカクニンしてない。

よんジュウゴ、『ス』サンジュウ

どこかイツテンにネツがあると、まわりのすずしいなにかが、ネツのホウにちかづき、ネツのあるなにかも、すずしいテンのホウにむかい、やがてネツのあるテンとすずしいテンのオンドのヘイキンのオンドにおちつくであろう。だから、その「なにか」に、イドウにあわせて、すずしいホウへのシンコウリヨクが、ネツのホウへのインリヨクがシヨウじるといえるだろう。

インリヨクをもつブツシツより、シンコウリヨクをもつブツシツがかかるければ、シンコウリヨクがひくい（インリヨクがつよい）といえるだろうし、インリヨクをもつブツシツのホウがかかるければ、インリヨクがひくい（シンコウリヨクがつよい）といえるだろう。

タイヨウとそのケイのワクセイは、インリヨクとシンコウリヨクがわりとつりあつていようである。チキユウをなにかのホウホウでひやせば、タイヨウのホウへひつぱられるだろうし、あつためれば、タイヨウからはなれるであろう。だからチキユウがオンダンカすると、イチネンがなくなるのではないか。イチネンがサンビヤクななジュウ

ニチになるかもしれない。しかし、あまりそのことはギロンされぬ。きになるのは、ヘイジツがふえるか、キュウジツがふえるかである。

ヨンジュウロク、『ス』サンジュウイチ

インリヨクをもつということは Netz がなければならぬとなる（●よんジュウゴ、『ス』サンジュウ）。「ビッグバン」のはなしでいえば、ウチュウのチュウシンから Netz がそとがわにイドウする。「バクハツ」ならブッシツもそとがわにいくだろう。だから、ウチュウがひろがるとかんがえられている。でも、Netz はそとがわにいくにつれ、ウチュウのチュウシンのオンドとくらべひくくなる。つまりウチュウのそとがわがあたたまるわけだ。ウチュウのそとのオンドがひくければ、ウチュウはそのオンドとのヘイキンまであたたかさがおさえられる。とドウジにウチュウのそとから（あれば）ブッシツがはいつてくる（なければオンドはさがらない）。

ウチュウのそとのオンドがたかければ、ウチュウは「ビッグバン」でハッセイしたのではないとおもわれる。ウチュウのそとからのものはいつてくるからだ。ウチュウの

つめたさとブツシツが、あたたかいウチュウのそとがわにあるだけだろう。ウチュウのそとがわにあるブツシツがすくなければ、ウチュウからあたたかさどブツシツがでていくのだろう。それだと、ウチュウはシダイにつめたくなる。ウチュウのおおきさテイドにウチュウはつめたくなるし、ブツシツもへっていく。それを「ウチュウはひろがる」というのだろう。そのうち、ニンゲンもすめなくなるテイドにつめたくなるかもしれない。コウセイのちかくにイドウしても、ジカンのモンダイである。そういうイツカイきりのウチュウなのであろうか。だからウチュウのリサイクルをかんがえている。

よんジュウシチ、『ス』サンジュウニ

ジカン イコール エネルギー わる シツリヨウのはなしをした(●よんジュウよん、『ス』ニジュウ、ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)。

ティ(ジカン) イコール
イー(エネルギー) わる
ダブリュ(シツリョウ)

これだと、エネルギーがレイでも、シツリョウがレイでもジカンはながれないとなる。ジカンでなかったら、イドウがセイリツしないだ。さて、それでは、エネルギーがさきにあるのか、シツリョウがさきにあるのであるのか。ニンゲンがつくったラジコンカーは、この「シツリョウ」にデンチ「エネルギー」をのせたのだろう。レキシをみると、ニンゲン(エネルギー)ができて、シャリン(シツリョウ)ができた。ジンリキシヤという

わけである。だからドウブツのケンキュウをすれば、こたえがでるかもしれない。

ニンゲンにとつてのエネルギーは、タンスイカブツなどである。それがあれば、かなりいきていられるようだ。タンスイカブツとはなにかというと、シヨクブツであろう。シヨクブツがさきにあつたか、ニンゲンがさきにあつたかという、シヨクブツがさきにあつたといわれる。ニンゲンよりも、ねずみなんかのホウがながいのであるうか。シヨクブツができるのにも、ニサンカタソがヒツヨウであつたろうから、ニサンカタソがどこにあつたかをしらべるといいかもしれない。ニサンカタソがチキュウにあつたのだらう。チキュウがもえているから、ニサンカタソはあつたのかもしれない。サンソとタンソがあつたのだらう。

セイブツのキゲンはサンソとタンソであつたようだ。それをチキュウがもっていた。シヨクブツとドウブツがなぜチキュウがもてたのかというのもキヨウミぶかいが、そのはなしはまたにする。なぜチキュウがもてているか。サンソとネツがあるからだらう。どこかのコウセイからとびひしたのかもかもしれない。そのコウセイもなにかをもやしているのだらう。サンソがさきなのか、もえるがさきなのか。なにもなければもえないようにおもう。「ビッグバン」といったって、ものがなければおこらないだらう。だから「もの

（シツリヨウ）「がさきにあつたとおもわれる。」

ものがあつて、もえるゆえに、ジカンがシヨウじた。なぜサンソがもえだしたか。タブンひきのばされたのだとおもう。タンジュンにいうと、タイセキがおおきくなつてコウオンになりハツカしたとおもわれる。わたしがガクセイのときにみたえだと、ウチュウ（サンソ）のジョウゲからアツリヨクがくわわつて、タイセキがおおきくなつたとかんがえられる（そのえをかいいたひとは、そうかんがえたのだらう）。だから、「ビッグバン」にせよ、もえるちからがそのまえにあつたとかんがえるのがただしだらう。ウチュウ（サンソ）がひろがつたからハツカしたとかんがえられるわけだ。そのひろげるちからとはなにか。またかんがえてみたい。ウチュウ（サンソ）をひきのばすちからがあるなら、ウチュウをちぢめるちからもあるかもしれない。それなら、ウチュウもサイリヨウできるのだらう。

よんジュウハチ、『ス』サンジュウゴ

よくわたしのコップのなかにむしがはいる。おおいときはサンびきぐらいはいつてス

イシしている。きもちいいからプールにはいるカンカクではいつているのでは（●）ジューキュウ、『よ』ヒャクロクジュー三）とかいたが、サイキンになって、そのリュウがわかった。それは、ケイコウトウのひかりが、コップのスイメンにあたり、ハンシヤするからである。むしはそのハンシヤしたスイメンをひかりだとおもい、みずにつかっってしまうのだから。そういうむしとりきがつくれそうである。

よんジューキュウ、『ス』サンジューロク

イシキはコジンとシゼン、シヤカイのおりあいをつけるためにあるとかいた。ところで、そのイシキとはなにでできているか。タンジュンにいうと、デンキシングウだろう。カガクブツシツといえるかもしれない。だから、あるはなしのトチュウに、なにかベツのデンキシングウをノウにおくりこめば、そのはなしにすりかわっていくかもしれない。しかし、そういったセンノウまがいのやりかたはカンベンしてほしいとおもう。

ところで、ことばは、デンキシングウをあらわすキゴウともいえるだろう。そのキゴウは、くにやチイキによってちがう。そういうのをセイリして、キョウツウゴをつくれ

ばベンリかとおもうが、アンガイつかわれないようだ。いいジョウホウがあるくにのこ
とばがつよくなるのだろう。むかしはワコンカンサイ、いまはワコンヨウサイか。ニホ
ンジンもがんばらねばとおもう。

ゴジユウ、『ス』よんジユウ

いきるとは「キョウリヨクすること」である。なぜそういえるか。ニンゲンのカクサ
イボウがキョウリヨクしなかったら、セイゾンがコンナンだからだ。サイボウはそれぞ
れやくめをもちながらキョウリヨクしている。ただ、キョウリヨクするだけではだめだ。
それぞれのやくめをはたさなければならぬ。そこをかんちがいてしまうと、シユウ
ダンにマイボツしたり、ツゴウのいいひとになつたりしてしまう。おおきなタンイのセ
イゾンになにかキョウリヨクできればいいのではなからうか。

エイゾウ

エルガク

ひとりブツリガクのチョウセン シドクバン

ニセンジュウキュウネンハチガツニジュウイチニチ

ニセンニジュウネンゴガツニジュウハチニチ

ニセンニジュウイチネンシガツニジュウニチ

Ititoga b007-3-s

エイチテイテイピーコロンスラツシユスラツシユアイアイアイテイオージーエーピリオ
ドシューオーエム

テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイテイオージーエーピリオド
シューオーエム

